

「全鍍連」 2018年 10月号 いきいき地域

兵庫県鍍金工業組合 理事 古塚 恵太郎 (近畿防蝕株式会社 代表取締役)

「サッカーとの関わり」

縁あって企業経営者でありながら母校のサッカー部に深く関わっています。ゼネラルマネージャーとして3年、そして現在は監督として2年目です。

サッカーは今やメジャースポーツに成長しましたが、大学サッカーとなると皆さんあまり馴染みがないと思います。残念ながらサッカー界において最も認知度の低いカテゴリーかもしれません。

全国を9地域に分割してリーグ戦が行われ、夏と冬にそれぞれ全国大会が開催され日本一を争います。大学サッカーは日本のサッカー界のピラミッドとは独立しているのですが、レベルとしては、全国大会出場有力校がJ3あるいはJFLと同等レベルであると思います。

(日本のサッカー界はJ1を頂点に、J2、J3、JFL・・・とカテゴリー分けされています)

古くは大学サッカーが日本のサッカー界を牽引した時代もありましたが、Jリーグが発足し各チームが高校年代のユースチームを保有するようになると、大学サッカー不要論が囁かれた時もありました。しかし現在は大学サッカー出身のJリーガーも多数おり存在意義が再び認知されてきています。

我がチームは9地域リーグのうち、現在関西学生サッカーリーグ1部に所属しています。

1部リーグは12校で構成され、各大学それぞれの特徴を出して戦っています。

近年ではいずれのチームも200名前後の部員数を抱えて活動しており、全体をいかにマネジメントするのかと言う事がサッカー以上に重要な事になってきています。

我々はキャプテン、4回生を中心に学生の自主性を重んじるマネジメントを実践しています。チームの目的、目標、価値観などを学生達は年度初めに真剣に話し合い決定します。

そしてそれをチーム全体に発表し浸透させ、実践して行きます。

企業経営にも通じるものがあり、私自身も勉強させられる事があります。

実は大学サッカーに関わる前の10年間は社会人サッカーチームの監督をしておりました。

今思いますと、この15年間のサッカーを通じた経験が現在の企業経営者としての土台になっているように思います。それだけの時間的余裕を与えてくれた亡き父にも感謝しなくてはなりません。監督として後何年活動するのかはわかりませんが、サッカーへの恩返し、母校サッカー部への恩返しの気持ちで務めていきたいと考えています。

最後になりますが皆様、機会がございましたら是非お近くの大学サッカーリーグを観戦頂ければと思います。必ずや感動をお届けできると思います。